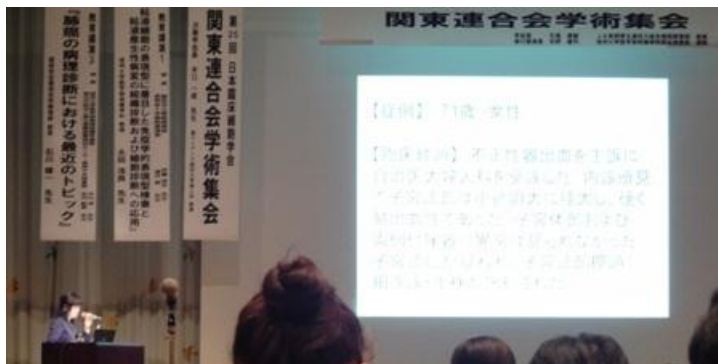
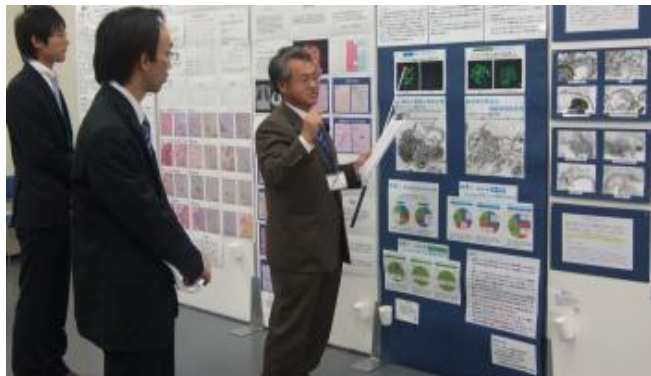


病理診断部 学術活動報告

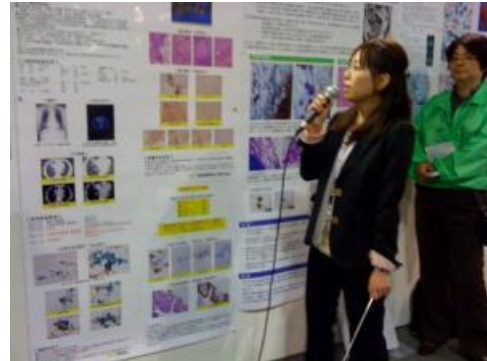
病理診断部スタッフは、今年も通常業務はもちろんのこと論文・書籍執筆、学会・研究会での講演、研究発表、座長、コメンテーターなど、様々な学術活動も行ってきました。そんな中から、今回は、普段あまり知られていない当部の技師スタッフの活躍を紹介します。



第24回 日本臨床細胞学会関東連合会学術集会 (9月)
久保野主任がシンポジストとして登場。大きな会場です。



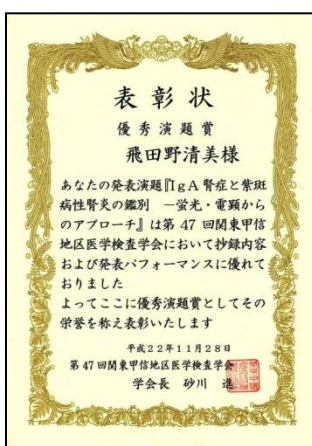
第47回関東甲信地区医学検査学会 (11月)
自治医大開学以来、10,000件の電顕像を見てきた男、櫻井副技師長の発表はさすがの貫録です。



第49回日本臨床細胞学会秋季大会(11月)
田村技師が落ち着いた口調で発表中。



第47回関東甲信地区医学検査学会 (11月)
二階堂技師 (写真中央) が多くの人からの質問に答えています。



第47回関東甲信地区医学検査学会 (11月)
飛田野技師は、「IgA腎症と紫斑病性腎炎の鑑別-蛍光・電顕からのアプローチ」で優秀演題賞に輝きました。

年末年始の受付業務案内

| | 12/28 (火) | 29 (水) | 30 (木) | 31 (金) | 1/1 (土) | 2 (日) | 3 (月) | 4 (火) |
|------------|-----------|---|--------|--------|---------|-------|-------|-------|
| 剖検 | 通常業務 | 受付時間 8:30~17:15 (内線 2257 or PHS 18218) | | | | | | 通常業務 |
| 組織診 細胞診 | 通常業務 | 休日体制で対応しますが、緊急で検体提出がある場合は、剖検当番医 または 当番検査技師に連絡を取ってから提出して下さい。 | | | | | | 通常業務 |

細胞診検査室からのお願い

病理診断部では、医療安全部の指導の下、検体取り違え防止を含めたインシデント防止に尽力しているところです。また、一方では、臨床各科からの検体提出時の不備をなくすための注意喚起も直接にまた医療安全部を通して間接的に行っていますが、依然、検体提出時の不備が減少しません。そこで今回は、特にインシデント寸前の事例が後を絶たない細胞診検体提出について、今一度、関係者の皆様へ注意と確認をお願い申し上げます。

■ 依頼用紙に臨床情報(経過、診断、治療の有無など)、検査目的などを記載して下さい。

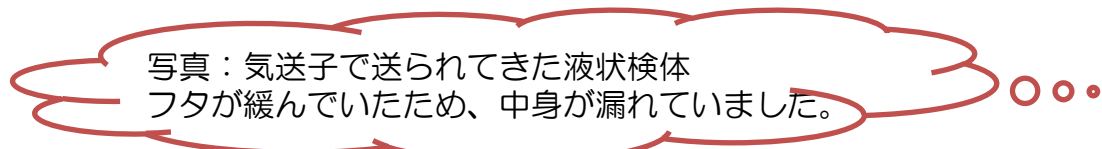
■ 検体容器・スライドガラスには、採取部位と患者名(フルネーム)を必ず記載して下さい。



★ 同姓同名による検体識別のためにはIDの記載や、同一患者での複数日採取の場合は日付を、採取部位の区別が必要な検体は、右・左・①・②などもスライドガラスに記載して下さい。

■ 液状検体はスピッツの蓋を確実に閉めてください。

★ 特に、気送子で検体を送る場合、途中で液漏れ、検体の喪失も生じ得ます。損失を被るのは患者さんです！ 厳重に注意してください。



■ 擦過検体(子宮頸・体部など)や穿刺吸引検体(甲状腺・乳腺・リンパ節など)は、検体をスライドガラスに塗抹後、直ちに95%アルコール固定液に入れて下さい。

★ 標本が乾燥してしまうと、判定困難になってしまいます。

■ 細胞の変性を防止するため、原則、直ちに病理診断部に提出して下さい。

■ 検体は、原則、業務時間内に提出して下さい。

来年もスタッフ一同 精一杯頑張る所存です。



どうぞよろしくお願い致します。